（様式６－１）

実績概要（ホームページ掲載用）

研究又は活動のテーマ	過疎高齢地域における居住の継続と緊急時のシステム構築に関する研究 －ネットワーク解析による住民相互の関係性の地域比較－
助成事業者	鹿児島大学学術研究院理工学域工学系
代表者	本間　俊雄

（目的）

過疎・少子が進展する状況下で、高齢化先進県である鹿児島の特に高齢化率の高い地域では、現状に沿った地域づくりが急務であり、重要な課題となっている。若者の減少が著しく、地域活動の衰退や買い物・通院などの日常生活に支障が生じている地域では、災害時等の緊急時においてより深刻さを増す。住み慣れた地域での居住の継続に不可欠な公助・共助・互助を考える時に、血縁や地縁などによる人と人の繋がり(関係性)や生活に対する意識を把握することは、地域住民や行政にとって互助・共助に通じる地域の現状の理解となり、今後の地域コミュニティの支援や緊急時のシステム構築の一助となる。

本研究では、鹿児島県の過疎・高齢化地域の集落において、20歳以上の住民を対象とした対面ヒアリングにより、人の繋がりとその詳細な内容把握に数理解析による分析を通して、地域の特徴と他地域との違いを明らかにし、地域に沿った活性化や防災計画の基本データと提言の提出を目的とする。特に、地域の状況と住民からの要望・要求に対して、行政の限られた予算の中でソフト・ハードの両側面から対象地域に沿った支援の手引きになり得、結果的に防災組織等の構築、居住継続の施策に役立たせることが可能である。

（概要）

本研究では鹿児島県の高齢化率の高い集落を対象とし、訪問面接による人と人の繋がりの調査を実施する。面接は、面接委員２名に対して住民個別に行い、２７項目のアンケート内容を順番ではなく会話の中から自然に聞き出す調査形式をとった。これまで申請者の研究グループでは、継続的に薩摩半島、大隅半島３地域１２集落を対象としたネットワーク量等の比較検討を行ってきている。これらの解析データに加え、必要となる特徴的な集落のデータが、普遍的な議論をする上で不可欠であり、今回の調査では鹿児島県の高齢化率が高い大隅半島根占地域を調査対象としている。得られた結果からは、グラフ理論を用いたネットワーク解析を行い、鹿児島県内の過疎高齢化の各地域に対する共通性や相違点を明らかにし、地域の特徴や問題点を把握している。

ネットワーク解析では、従来、ネットワーク図を中心とした単純な分析を利用していたが、全てのデータを見直し、多くの分析量の提示により各集落の現状把握を実施した。特に地域をまとめる人材の育成や地域のネットワーク創生指針の提示は、今後の過疎化地域の活性化･振興に向けた基礎データとなると考えている。